

令和5年度全国学力・学習状況調査（令和5年4月18日（火）実施）結果分析

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- ▶全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。
- ▶学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。
- ▶そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

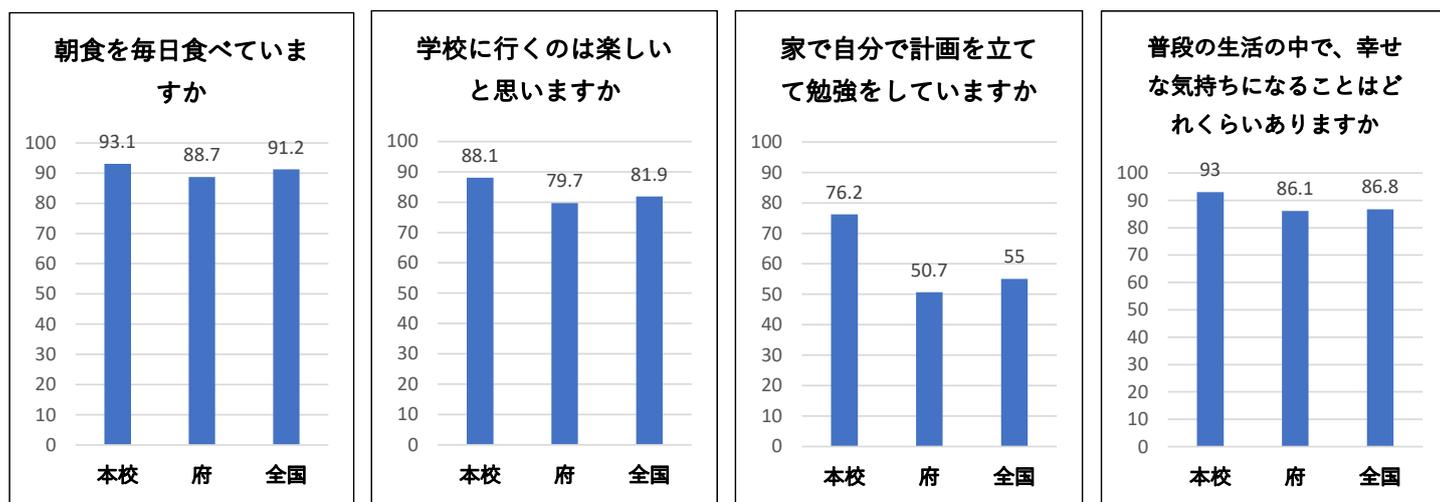
2. 調査概要

- ▶調査日時：令和5年4月18日（火）
- ▶調査対象：中学3年生
- ▶教科調査：【国語、数学、英語】、質問紙調査

3. 結果と分析

（1）質問紙調査

◆成果がみられた項目について



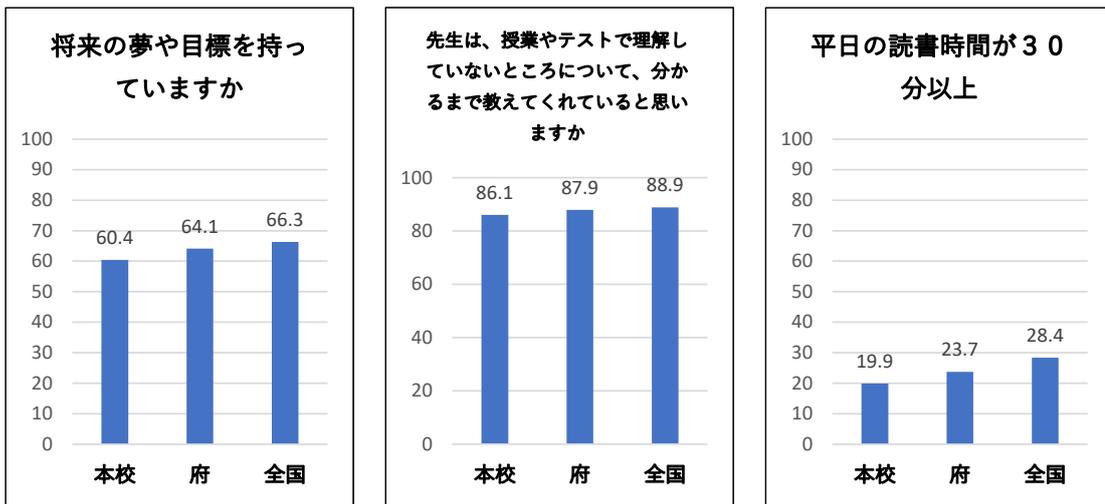
基本的な生活習慣についての質問項目では、グラフの項目以外にも、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」などでも府、全国平均を上回っており、ご家庭での基本的な生活習慣を整える事に対して、ご理解をいただいていることがうかがえます。

学校では食育や睡眠の重要性を伝えることに取り組んでいます。食育では、栄養教諭が中心となり、授業などで朝食を摂ることの重要性を伝えることで、朝食摂取率が、改善されています。

「学校に行くのが楽しい」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の項目が高く、生徒の学校生活が充実していることがわかります。3年生の学年目標である「仲間、自治、学力」の取り組みの成果があらわれ、普段の授業を中心に据え、行事やクラブ活動などの体験を通して、挑戦したこと、やり遂げたこと、協働することが自信となり、生徒自身が、自己の成長と集団としての成長を感じているところです。

また、今年度から「今未来手帳」を取り入れ、メタ認知力を高める取り組みの中で、時間管理を意識することで、計画を立てて勉強することの数値が伸びており、成果としてあらわれています。

◆課題がみられた項目について



読書に関しては、本校の取り組みの一環で毎朝15分朝読書の時間を設定しています。しかし、学校での読書の時間以外でほとんど本を読むことをしていない生徒が多いです。「読書は好きですか」の項目でも府、全国平均に比べても低い結果となっています。近年の入試問題の傾向をみても、各教科で読解力を問われる問題が多く、読書をしている生徒の方が正答率が高い傾向にあります。

学習面において、今年度の校内研究テーマを「未来を生きる力を育む、生徒主体の授業づくり」とし、全職員で取り組んでいます。テストで高い点数を取るためだけの授業でなく、予測困難な未来を生きる力を育むには、自ら学ぶ主体性が求められます。粘り強く学習に取り組む姿勢を重視し、その姿勢を評価に反映することで、生徒がやる気になる授業、魅力ある授業を目指すことを教職員全員が同じ認識で取り組んでいます。

「目標・夢を持つ力」の育成に関して、地域に開かれた学校を目指し、1年生校内オリエンテーリングでの地域の方とのふれあいや、2年生での職業体験、3年生での進路学習などのキャリア教育の内容を充実させること、またゲストティーチャーを招き多くの大人と出会う機会を増やすことで、将来の目標や夢を持つことにつなげていきます。

◆本校が重点的に取り組んでいくこと

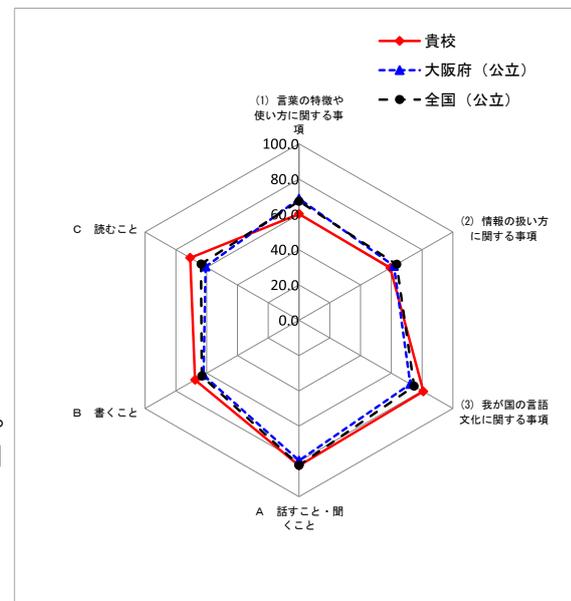
中学校では、「非認知能力の伸長」を意識することに取り組んでいます。全ての教育活動を通して、「あきらめない力」「自分を調整する力」「目標・夢を持つ力」「挑む力」「協働する力」「受け入れる力」「伝える力」の7つの力を育むことで、「自ら学び自ら動く生徒、一人一人の良さが輝く学校」を目指します。

(2) 各教科の結果分析について

①教科名 (国語)

受験者数 (102 名)

	正答率	差
太子町立中学校	71	
大阪府	68	+3
全国	69.8	+1.2



<結果概要>

全国平均に対して+1.2、府平均に対して+3という結果だった。観点別にみると、「思考・判断・表現」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全項目において全国平均を上回っている。しかし、「知識・技能」の3区分の内、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」が全国平均、府平均共に下回る結果となった。問題形式については、記述式、選択式が全国平均を上回るものの、短答式が府平均を下回っている。

◆成果 (平均よりも高かった項目を記入してください) ※行は適宜追加削除して下さい

項目	本校	大阪府	差	全国	差
4ー	93.1	82.0	+11.1	82.5	+10.6
2四	76.5	63.5	+13	67.5	+9
1四	91.2	78.1	+13.1	82.5	+8.7

<コメント>

・聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめたり、文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする力が徐々に付いてきている。授業の課題で、自分の考えを表現する機会を多く設けており、苦手な生徒も前向きに取り組めるようになった。また、自分の意見を考えて表現し、根拠を明確に伝えるよう表現できているか互いに聞き合ったりアドバイス、再度推敲することで、互いに刺激し合えることができていると思われる。

◆課題 (平均よりも低かった項目を記入) ※行は適宜追加削除して下さい

項目	本校	大阪府	差	全国	差
3二	32.4	47.6	-15.2	43.9	-11.5
1ー	80.4	86.6	-6.2	87.5	-7.1
3三	55.9	59.7	-3.8	61.8	-5.9

<コメント>

・文脈に即して、同訓異字を使い分ける問題は、無回答も7.8%あり、知識の活用ができていない。目的や場面に応じて質問する内容のメモを活用するための検討が府の平均を下回っている。提案や主張など自分の考えを話すことはできつつあるが、それらを聞いた上でさらに質問したり、評価したり、述べたりする活動が苦手な生徒がいる。「具体」と「抽象」など情報と情報の関係性について理解して区分し、まとまりの見出しをつけるための読み解く力の活用が課題がある。

▶今後の取り組み内容 (予定)

- ・同訓異字や同音異義語など、漢字の活用を意識した漢字小テストを継続し、知識の定着を図る。
- ・「話す・聞く」について、表現したい内容を全て書かず、メモを生かして内容を伝えたり、自分の考えを表現したりできるような実践的な機会をさらに増やす。また、他者の意見や考えを聞いた上で、さらに質問したり、意見を述べたり、評価したりするような活動に根気よく取り組ませる。
- ・「具体と抽象」など情報館の関係性について考えながら、「話す・聞く・書く・読む」の場面で活用できるような課題を設定する。

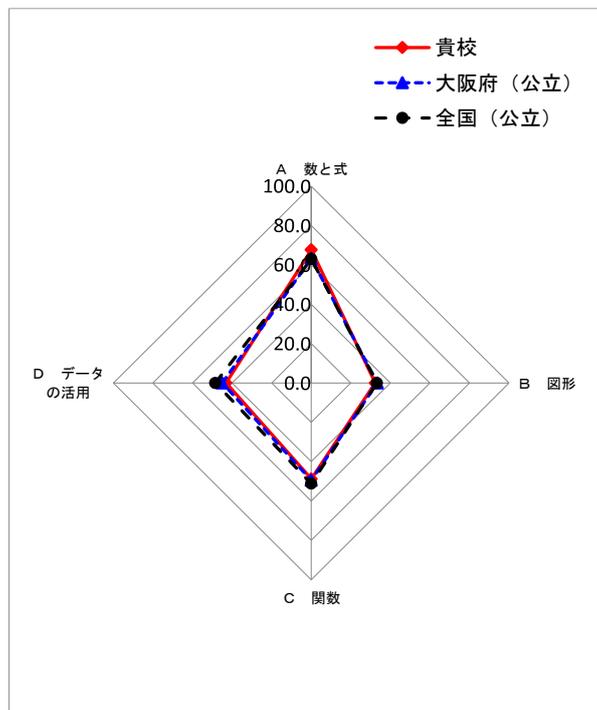
教科名 (数学)

受験者数 (102 名)

	正答率	差
太子町立中学校	51	
大阪府	50	+1
全国	51.0	0

<結果概要>

全体の平均正答率は、大阪府平均をわずかに上回ったものの、全国平均と等しい。領域別にみると、「数と式」で全国、大阪府共に平均正答率を上回っている。観点別にみると「思考・判断・表現」で全国、大阪府共に平均正答率を上回っている。問題形式については、記述式で全国、大阪府共に平均正答率を上回っている。



◆成果 (平均よりも高かった項目を記入してください) ※行は適宜追加削除して下さい

項目	本校	大阪府	差	全国	差
6 (2)	70.6	57.6	+13	58.8	+11.8
7 (2)	41.2	28.2	+13	33.6	+7.6
6 (1)	95.1	88.2	+6.9	88.9	+6.2

<コメント>

数の説明については、苦手意識を持つ生徒が多いため、2年次から何度も似たような問題を繰り返し丁寧に進めてきた。自分でどんな倍数になるのか見つける活動も行ってきたため力をつけつつあるのではないかな。箱ひげ図から傾向を分析する問題でも、班活動を行い箱の位置やひげの長さから傾向を読み取り、自分たちの言葉で説明する練習を行った。班活動の中で班員と話し合い説明する力が付いたのではと思われる。

◆課題 (平均よりも低かった項目を記入) ※行は適宜追加削除して下さい

項目	本校	大阪府	差	全国	差
5	25.5	43.6	-18.1	46.1	-20.6
8 (2)	55.9	60.1	-4.2	61.7	-5.8
4	40.2	44.2	-4	42.8	-2.6

<コメント>

1年次の内容を含む項目で正答率が低くなっている。比例定数や累積度数など、数学用語を忘れてしまっていたと考えられる。用語の意味を理解し正しい用語が使えるように、数学用語の大切さを伝え、関連内容では復習をしたり、普段から数学用語を使った説明をするように促す必要がある。

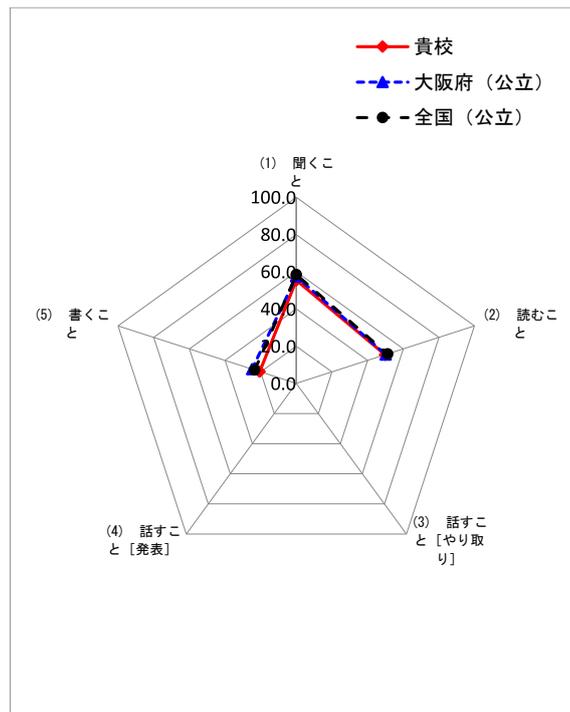
◎今後の取り組み内容 (予定)

授業やテストで記述する活動を引き続き積極的に取り入れていく。それに加え、自分の考えを書いたり発表したり説明する活動も入れていきたい。また、以前学習したことの定着を図るため、適宜復習を行っていく。「身の回りの数学」を感じられるような授業づくりを進めていきたい。

教科名 (英語)

受験者数 (102 名)

	正答率	差
太子町立中学校	43	
大阪府	45	-2
全国	45.6	-2.6



<結果概要>

全国平均に対して-2.6、府平均に対して-2という結果だった。観点別にみると、「知識・技能」が全国平均に対して-1.6、府平均に対して-1.3、「思考・判断・表現」が全国平均に対して-3.1、府平均に対して-3という結果だった。学習指導要領の領域では「読むこと」は、ほぼ府平均だったが「聞くこと」「書くこと」は全国平均・府平均共に下回る結果となった。問題形式については、短答式・記述式が府平均を大幅に下回っている。

◆成果 (平均よりも高かった項目を記入してください) ※行は適宜追加削除して下さい

項目	本校	大阪府	差	全国	差
3	48.0	40.9	+7.1	41.2	+6.8
8-	61.8	54.2	+7.6	56.1	+5.7
1三	54.9	49.0	+5.9	49.8	+5.1

<コメント>

- ・日常的な話題について、必要な情報を正確に聞き取ることができている。授業の中で、聞き取ったことを書き取る機会を定期的に設けており、苦手な生徒も前向きに取り組めるようになった。
- ・社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができている。音読練習や内容理解をペアで協力して行っていることが結果として現れてきている。

◆課題 (平均よりも低かった項目を記入) ※行は適宜追加削除して下さい

項目	本校	大阪府	差	全国	差
4	40.2	52.9	-12.7	54.8	-14.6
2	51.0	61.9	-10.9	61.1	-10.1
6	28.4	35.5	-7.1	35.9	-7.5

<コメント>

- ・短い説明の要点を捉えることができていない。
 - ・目的に応じて英語を聞いたり、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることが出来ていない。
- ▶今後の取り組み内容 (予定)
- ・自分の意見を英語を使って表現し、相手の話したいことが日常的な内容で理解できる力をつけるために、聞き取ったことを書き取ることや身近な話題や自分が経験したことについてまとまりのある英文を様々な表現で書くことを授業の中で継続して行う。
 - ・入試に類似した問題に取り組む。
 - ・ALT との授業で 50 語～80 語の英文を書く課題に取り組む。